

令和2年度第3回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：令和2年11月27日（金） 午前10時00分～正午

■開催場所：職員会館かもがわ3階 大多目的室

■議題：

- (1) 令和2年度市民公募委員サロンの実施について
- (2) 第3期京都市市民参加推進計画の骨子（案）について
- (3) 市民参加ハンドブックの作成（案）について

■報告事項：

- (1) 新たに設置された附属機関等について
- (2) 市民参加に関係する新しい事業や取組について

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員10名

（荒木委員，乾委員，内田委員，木村委員，嶋倉委員，菅谷委員，橋本委員，
壬生委員，森川委員，森本委員）

■傍聴者：1名

■特記事項：

動画共有サイトYouTube（ユーチューブ）を利用し，後日，音声配信を実施する。
Zoomを用いたWeb会議と併用開催した。

【議事内容】

1 開会

2 座長挨拶

<内田座長>

事務局から議題と本日の流れについて説明をお願いします。

<事務局>

（議題の説明，資料確認，時間配分について説明）

3 議題

議題（1）令和2年度市民公募委員サロンの実施について

<内田座長>

それでは、早速、議題に入りたいと思う。まず、事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

（資料1「令和2年度市民公募委員サロンについて」説明）

<内田座長>

市民公募委員サロンは、年に1～2回実施している。市民公募委員の交流や意見交換を目的に行っているが、開催方法等について、ご意見をいただきたい。

<荒木委員>

例年、参加するとどのような価値が得られる場であるのか。また、元々持っている課題を解消する場になっているのか。そして、今年度は、コロナ禍でオンライン併用開催になると思うが、対応はどう変わるのか。

<内田座長>

市民公募委員サロンに参加したことのある委員から説明してはいかがか。

<森川副座長>

過去2年ほど参加した。参加された市民公募委員からは、審議会で上手く意見が言えなかった、事務局とどう関係を作れば良いのか分からなかった、専門委員に意見を聴いてももらえなかったなど、市民公募委員の悩みを多く聴けたのが、まず良かった。そして、市民協働推進担当から、各附属機関等にその声を共有しているので、公募という仕組みを良くすることに寄与できたと思う。年度末に実施した際に、審議会が終わっていて今後に活かしていくという声もあり、できるだけ早い時期に実施するようにもしていた。

<橋本委員>

市民参加推進フォーラム会議では、複数の市民公募委員がいるため、孤立感や意見を言えない雰囲気を感じていないが、専門家の中で1人参加している立場の市民公募委員も居られるため、その難しさがあることを理解した。

<内田座長>

オンライン併用開催とした際の難しさを、事務局は何か想定されているのか。

<事務局>

オンライン併用での開催時には、場づくりに工夫がいていると考えている。パネルディスカッション等の共通プログラムはあるが、対話する際には、オンラインとオフラインで分けた方が上手くいくのではないかと考えている。参加者数によっても工夫を考える必要があると考えている。

<内田座長>

コロナ禍の影響で審議会の開催状況にも変化があると思う。例年とは違う市民公募委員の思いや考えが出てくるかもしれない。

<木村委員>

市民公募委員全体の内、どれくらいの人が参加するのか。

<事務局>

市民公募委員は180名強おられるが、サロンに参加されるのは10名程度である。多くの方が参加するというよりも、不安を抱えている方などが参加してくれている。参加者は多くはないが、毎年度、直接声を聴くことで学ぶことが多い。しっかりと交流できるため、実情を把握できて勉強になると感じている。

<木村委員>

コロナ禍の影響で参加者が少ない場合のアフターケアは考えているか。

<事務局>

サロンの実施内容を共有するサロン便りを毎回作っている。市民公募委員全員に発信することで、参加していない方にも内容が伝わるようにしている。

<乾委員>

公募委員同士の交流という趣旨は良いと思うが、公募委員の不安や話し難さは、委員会又は行政との関係の中で発生している課題である。審議会を運営する職員や座長が参加してくれる方が、より良い審議会運営につながるのではないか。

<事務局>

事務局職員や市民協働ファシリテーターへの参加を呼びかけている。職員の参加も促していきたい。

<乾委員>

参加者応募する際には、公募委員の皆さんの意見は、今後の審議会運営に反映するため

市役所内で共有する趣旨を記載することで、参加動機が高まると思う。

<内田座長>

サロン当日は、全員で役割を担って運営することになるが、全体企画については、篠原委員と兼松委員に別途相談したい。日程は事務局から別途調整していただく。

議題（２）第３期京都市市民参加推進計画の骨子（案）について

<内田座長>

次に、議題（２）に入る。事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

（資料２「第３期京都市市民参加推進計画の骨子（案）」説明）

<内田座長>

フォーラムの提言を受けて、骨子を取りまとめられた。骨子案について、お気づきの点について、ご意見を伺いたい。

<嶋倉委員>

最初の見開きの図で、施策４・６・７・８の施策名が同じになっている。

<橋本委員>

同じ図で、市会との連携とある。市議会ではなく、市会が一般名称なのか。

<事務局>

京都市では、京都市会が正式名称である。骨子案８ページの２行目に市会との連携について言及している。

<荒木委員>

市会（京都市議会）と但し書を添えることは可能か。

<事務局>

確認するが、京都市会が正式名称であるため、但し書表記は難しいかもしれない。

<内田座長>

フォーラム会議の中では、市会との連携についてほとんど触れずに議論してきたが、行政の仕組みとして必要な内容であるため、改めて記載されている。

<菅谷委員>

市民参加を推進する計画であるが、各区で開催されている区民会議等で議論されているまちづくりビジョン等と連携できているのか。

<内田座長>

市民参加推進計画が、京都市の計画の中で、どのような位置づけにあるかが分かると良いということか。

<菅谷委員>

市民参加推進計画の内容を踏まえて、各区が内容を作ると一体感があると思う。

<事務局>

京都市は、市民参加を市政運営の柱に据え、条例を制定している。また、市民参加を総合的に推進するために計画を策定している。この計画は、各部署が作る計画を横軸で連ねる根底となるものであり、その考えを骨子案3ページの図で示している。

<内田座長>

考え方は理解できるが、骨子案に表現できているかは疑問である。修正反映させるべき項目として検討していただきたい。

<壬生副座長>

現計画にも「市民参加を総合的に推進する計画」という記述がある。このような記述があると良いのではないか。「市民参加推進計画と特に関わりの深い計画」と記載して、枠で囲う表記が分かり難くさせているのではないか。

<事務局>

「京都市レジリエンス戦略」や「まち・ひと・しごと・こころ京都創生総合戦略」も、全ての計画で考えるべき横串の観点があり、その根底には市民と協働で一体的に進めるという考え方がある。担当部署として、一体的に進めることを求められており、その3つの計画を枠で囲っている。

<壬生副座長>

各政策分野に横断的に関わる計画であるという表記の方が分かり易いのではないか。

<事務局>

基本計画の所管部署と協議し、全庁横断的な計画が他にもあるため、市民参加推進計画と特に関わりが深いという表現を用いたが、全庁横断的な要素の追加表現も検討する。

<木村委員>

基本方針、重視する視点が各3つあり、「はじめる・つながる・ひろがる」とあるが、それぞれの繋がりが分かり難い。重視する視点は、横串として表現した方が良いのではないか。また、「はじめる・つながる・ひろがる」の中に、施策を入れた方が分かり易くなるのではないか。

<橋本委員>

色で工夫しているのは分かるが、オレンジの濃淡が分かり難い。配色を見直す等の細かな工夫でも分かり易くなると思う。

<森本委員>

見開きと3ページの図の色が、「はじめる・つながる・ひろがる」と同じなので、関係があるように思えた。また、計画期間の終わりが同じものは、一緒に囲った方が分かり易いと思う。計画の上下関係を表している図とは理解できなかった。

<壬生副座長>

「はじめる・つながる・ひろがる」を表現する色は統一するなど、全体的に使う色は、統一した方がいいのではないか。基本方針の色分けも上手く活かして、説明文にその色を反映してはどうか。また、骨子案8ページの推進体制にだけ、イラストが入っているのはなぜか。ここにだけイラストが入っていると、意味があるのではないかと思える。

<事務局>

段組を考えてイラストを入れている面もあるが、絵のトーンが一緒で、同じ図のように見えてしまうので、表現や記載内容については再検討する。

<内田座長>

本日の意見が反映された後に、再度、パブコメ用骨子案の内容を確認することができるのか。

<事務局>

本日欠席の委員も居られるため、お気づきになられた点は、引き続きお聞かせいただきたい。市会報告前には、最終案を別途共有させていただく。併せて slack にもパブコメチャンネルを作成するので、書き込んでいただきたい。日程については、別途連絡する。

<荒木委員>

骨子案1ページ目（表紙の次）、中央の施策2の説明「市民と職員の対話」の最初のカッコが抜けている。

<事務局>

(資料3「市民意見募集(パブリックコメント)の実施方法」説明)

<内田座長>

対話型パブコメの実施等が京都市の特徴だと思うが、パブコメの実施について、ご意見を伺いたい。

<橋本委員>

大学授業との連携は、どのような繋がりでどのように実施するのか。

<事務局>

フォーラム委員をしていただいている大学の先生の授業と連携することを考えている。

<橋本委員>

公に広く呼びかけはしないのか。地域活性化に取り組んでいる大学のゼミ等があると思うので、広くアプローチすると良いのではないかと。

<菅谷委員>

アンケート形式を盛り込むなど、答えやすくする工夫をすると良いのではないかと。

<事務局>

書面だけでは分かり難いことがあるため、対話型パブコメを実施している。加えて、YouTubeでの動画配信を検討している。アンケートとパブコメは異なるため、意見募集用紙にアンケート形式を入れるかは確認が必要であるが、答えやすくする工夫は検討したい。

<内田座長>

地域の会議でも、依頼があれば、市役所職員が出向いて対話型パブコメを実施していただくことは可能である。学生広報部などに協力いただいて若者の意見をいただいたり、ショッピングセンターで広く意見をいただくような対話型パブコメも進めていただきたい。

議題(3) 市民参加ハンドブックの作成(案)について

<内田座長>

次に、議題(3)に入る。事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

(資料4「市民参加ハンドブックの構成概要(案)」説明)

<菅谷委員>

文字数をできるだけ少なくして、ビジュアルで理解できるようにする工夫が必要だと思う。文字数が多い説明になると、途中で読むのを諦めてしまう方が多い。

<橋本委員>

タイトルを最初に読んだ際に、「みんなでつくる、京都ハンドブック」と読めた。「みんなでつくる京都、ハンドブック」だとすると、少し分かり難いと思う。

<事務局>

みんなごとのまちづくり事業を進めている。そのポータルサイトの名前が「みんなでつくる京都」である。そのため、仮に「みんなでつくる京都ハンドブック」としている。市民が読みたくなる名称にしたい。

<橋本委員>

ハンドブックを付けずに、「みんなでつくる京都」だけで良いのではないか。

<事務局>

表紙に、多様な「市民参加」に関する活動を示すイラストを記載して、「市民参加の活動はいくつあると思うか」という質問を書くことで、興味を持って見ていただくような仕掛け等も考えている。

<内田座長>

ハンドブックを読むことをきっかけに、市民同士や事務局との間にコミュニケーションが生まれると面白いと思う。ポータルサイトと連動すると良いのではないか。

<木村委員>

ハンドブックを作るのは初めてのことか。ビジュアル化して簡単にすると、役に立たないこともある。読むターゲットを絞って決めることが大事だと思う。

<内田座長>

提言書の重視する視点に合わせて、若者や次の世代をターゲットにするのは良いかもしれない。ハンドブックの配布場所・方法・対象についてもご意見をいただきたい。

<森本委員>

対象は、今は決まらないのか。記載例は子育て世代向けに思える。施策の横にQRコードが付いていれば、そのQRコードから詳細を子どもと一緒に見てみたいと思う。

<事務局>

特にターゲット（対象）を決めていた訳ではないが、楽しさを感じられるポップなビジュアルを考えていた。これまで市民参加にあまり興味を持っていただけていない層である、若者や次の世代に興味を持ってもらいたいと考えている。

また、作った途端に古くなって使えないものにならないよう、ポータルサイトへの誘導や連動により、少なくとも5年ぐらいは使えるものにしたい。

<内田座長>

それでは、報告事項に移る。事務局に説明願いたい。

4 報告事項

報告事項（1）

<事務局>

（資料5「新たに設置された附属機関等に係る協議結果（一覧）」報告）

報告事項（2）

<事務局>

（資料6「市民参加に関係する新しい事業や取組」報告）

<内田座長>

以上で本日の議題、報告事項は終了となる。皆さん、どうもありがとうございました。

傍聴者の方、何か御意見があればどうぞ。

<傍聴者>

委員が一言も発言しない審議会等がある中、この会議では皆で議論していることが良いと思う。また、市民目線で悪いことは目に付くが、良いことにはあまり目が向かないので、良いことがもっと市民に伝わる発信をしていただきたい。

5 閉会

<事務局>

本日も活発な御意見、ありがとうございました。骨子案について具体的な御意見をいただき、有難く思う。コロナ禍の影響で他の計画策定が遅れている中、市民参加推進計画は予定通りに進めている。先に計画策定することで、他の計画に市民参加の思想や考え方を生かしやすくなる。年末年始の忙しい時期に入るが、引き続き、お力添えの程、宜しくお願ひしたい。

以上